

・ 応急危険度判定補足

実施基準・木造以外の調査表について

・ 判定コーディネーター業務

目黒区の応急危険度判定 実施基準

■判定実施基準

震度6弱以上：原則 判定実施

■判定対象

※外観調査のみ

※住宅のみ（併用住宅・共同住宅含む）

※敷地内の車庫等の付属建物は対象外

※公営住宅や企業の社宅等は対象外

※高層集合住宅は対象外（10階建以下のみ対象）

構造別の判定基準について

※調査2の項目が異なる

木造の判定（動画のとおり）

2 隣接建築物・周辺地盤等及び構造躯体に関する危険度

	Aランク	Bランク	Cランク
①隣接建築物・周辺地盤の破壊による危険	1.危険無し	2.不明確	3.危険あり
②構造躯体の不同沈下	1.無し又は軽微	2.著しい床、屋根の落ち込み、浮き上がり	3.小屋組の破壊、床全体の沈下
③基礎の被害	1.無被害	2.部分的	3.著しい（破壊あり）
④建築物の1階の傾斜	1. 1/60以下	2. 1/60～1/20	3. 1/20超
⑤壁の被害	1.軽微なひび割れ	2.大きな亀裂、剝落	3.落下の危険有り
⑥腐食・蟻害の有無	1.ほとんど無し	2.一部の断面欠損	3.著しい断面欠損
危険度の判定	1.調査済み 全部Aランクの場合（要内観調査）	2.要注意 Bランクが1以上ある場合	3.危険 Cランクが1以上ある場合

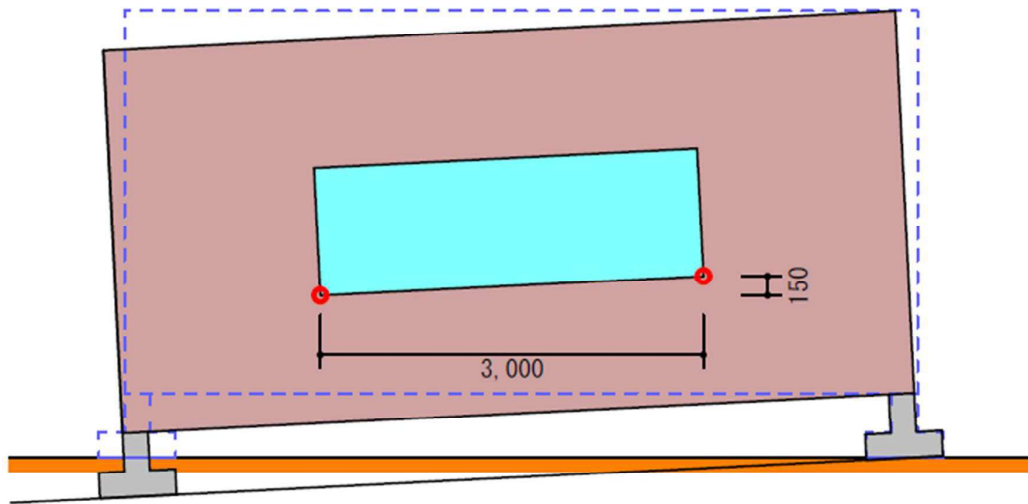
鉄骨造の判定

2 隣接建築物・周辺地盤等及び構造躯体に関する危険度

	Aランク	Bランク	Cランク
①隣接建築物・周辺地盤の破壊による危険	1.危険無し	2.不明確	3.危険あり
②不同沈下による建築物全体の傾斜	1. 1/300以下	2. 1/300～1/100	3. 1/100超
③建築物全体又は一部の傾斜			
傾斜を生じた階の上の階数が1階以下の場合	1. 1/100以下	2. 1/100～1/30	3. 1/30超
傾斜を生じた階の上の階数が2階以上の場合	1. 1/200以下	2. 1/200～1/50	3. 1/50超
被害最大の階（階）			
④部材の座屈の有無	1.無し	2.局部座屈あり	3.全体座屈あるいは著しい局部座屈
⑤筋違の破断率	1. 20%以下	2. 20%～50%	3. 50%超
⑥柱梁接合部及び継手の破壊	1.無し	2.一部破断あるいは亀裂	3. 20%以上の破断
⑦柱脚の破損	1.無し	2.部分的	3.著しい
⑧腐食の有無	1.ほとんど無し	2.各所に著しい錆	3.孔所が各所に見られる
危険度の判定	1.調査済み 全部Aランクの場合（要内観調査）	2.要注意 Bランクが3以内の場合	3.危険 Cランクが1以上又はBランクが4以上

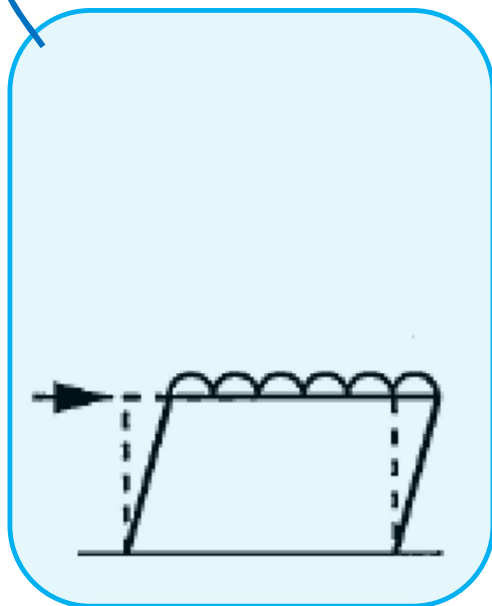
	Aランク	Bランク	Cランク
②不同沈下による建築物全体の傾斜	1.1/300以下	2.1/300～1/100	3.1/100超

$$\text{不同沈下による傾斜} = \frac{\text{沈下量の差}}{\text{水平距離}} = \frac{150\text{mm}}{3,000\text{mm}} = 1/20$$

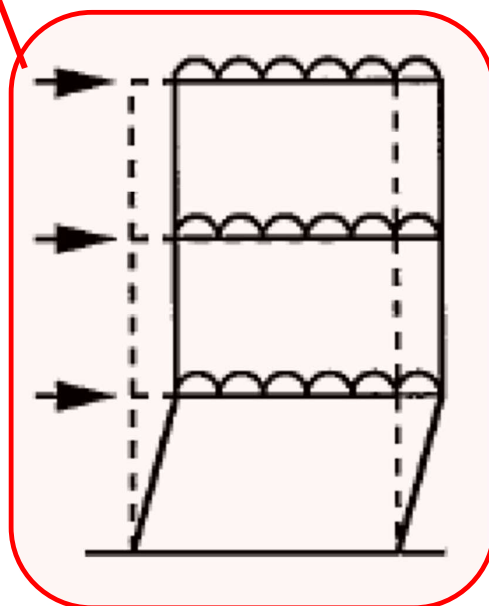


S造

	Aランク	Bランク	Cランク
③建築物全体又は一部の傾斜			
傾斜を生じた階の上の階数が1階以下の場合	1.1/100以下	2.1/100～1/30	3.1/30超
傾斜を生じた階の上の階数が2階以上の場合	1.1/200以下	2.1/200～1/50	3.1/50超



傾斜生じた階1階 平屋・2階建



傾斜生じた階1階 3階建以上

下げ振り120cm

傾き ズレ

1/200 → 6mm
 1/100 → 1.2cm
 1/50 → 2.4cm
 1/30 → 4cm

S造

	Aランク	Bランク	Cランク
④部材の座屈の有無	1.無し	2.局部座屈あり	3.全体座屈あるいは著しい局部座屈

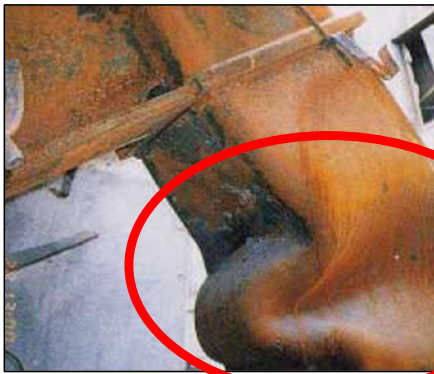
被害最大の階（階）

通常1階

局部座屈その1



局部座屈その2



全体座屈

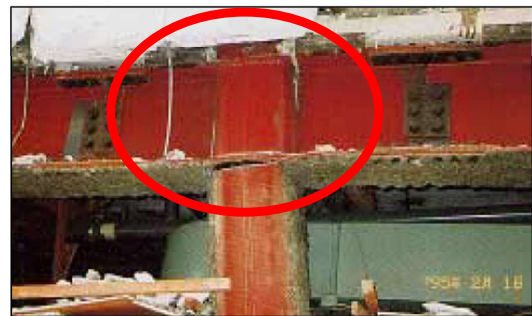


S造

被害最大の階（階）

	Aランク	Bランク	Cランク
⑤筋違の破断率	1. 20%以下	2. 20%～50%	3. 50%超
⑥柱梁接合部及び継手の破壊	1.無し	2. 一部破断あるいは亀裂	3. 20%以上の破断

柱梁接合部の破壊その1

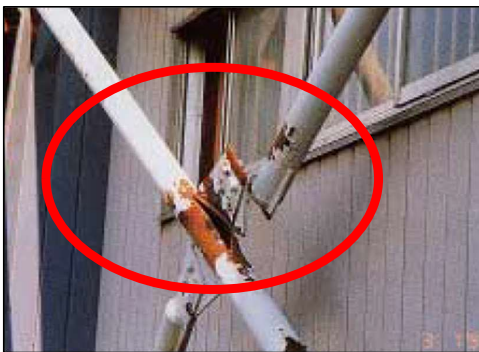


柱梁接合部の破壊その2

梁端部が完全に破断している
Cランク

S造

ブレースの破断



被害最大の階 (階)		Aランク	Bランク	Cランク
	⑦柱脚の破損	1.無し	2.部分的	3.著しい
	⑧腐食の有無	1.ほとんど無し	2.各所に著しい錆	3.孔所が各所に見られる
	危険度の判定	1.調査済み 全部Aランクの場合 (要内観調査)	2.要注意 Bランクが3以内の場合	3.危険 Cランクが1以上又はBランクが4以上

柱脚の破損その1



柱脚の破損その2



腐食



RC造の判定

2 隣接建築物・周辺地盤等及び構造躯体に関する危険度

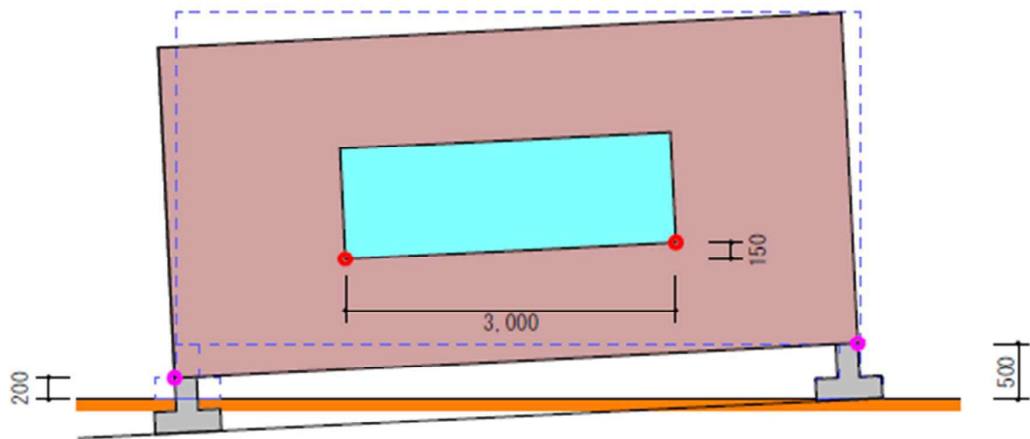
		Aランク	Bランク	Cランク
判定(1)	①損傷度Ⅲ以上の損傷部材の有無	1.無し	2.あり	
判定	②隣接建築物・周辺地盤の破壊による危険	1.危険なし	2.不明確	3.危険あり
	③地盤破壊による建築物全体の沈下	1.0.2m以下	2.0.2m～1.0m	3.1.0m超
	④不同沈下による建築物全体の傾斜	1.1/60以下	2.1/60～1/30	3.1/30超
	柱の被害〔下記⑤⑥の調査階(被害最大の階) 階〕(壁構造の場合は柱を壁の長さを読みかえる)			
(2)	⑤損傷度Ⅴの柱本数／調査柱本数	損傷度Ⅴの柱総数 本 調査柱 本 (調査率 %)		
		1.1%以下	2.1%～10%	3.10%超
	⑥損傷度Ⅳの柱本数／調査柱本数	損傷度Ⅳの柱総数 本 調査柱 本 (調査率 %)		
判定(2)		1.10%以下	2.10%～20%	3.20%超
		1.調査済み 全部Aランクの場合	2.要注意 Bランクが1の場合	3.危険 Cランクが1以上又はBランクが2以上
危険度の判定 判定(1)と判定(2)のうち大きな方の危険度で判定する		1.調査済み (要内観調査)	2.要注意	3.危険

沈下と傾斜

	Aランク	Bランク	Cランク
③地盤破壊による建築物全体の沈下	1. 0.2m 以下	2. 0.2m～1.0m	3. 1.0m 超
④不同沈下による建築物全体の傾斜	1. 1/60 以下	2. 1/60～1/30	3. 1/30 超

建築物の沈下＝500mm－200mm＝0.3m

$$\text{不同沈下の傾斜} = \frac{\text{沈下量の差}}{\text{水平距離}} = \frac{150\text{mm}}{3,000\text{mm}} = 1/20$$



RC造

損傷度Ⅲ

	Aランク	Bランク	Cランク
判定 (1) ①損傷度Ⅲ以上の損傷部材の有無	1. 無し	2. あり	
柱の被害〔下記⑤⑥の調査階（被害最大の階） 階〕（壁構造の場合は柱を壁の長さに読みかえる）			
⑤損傷度Ⅴの柱本数／調査柱本数	損傷度Ⅴの柱総数 本	調査柱 本	（調査率 %）
	1. 1%以下	2. 1%～10%	3. 10%超
⑥損傷度Ⅳの柱本数／調査柱本数	損傷度Ⅳの柱総数 本	調査柱 本	（調査率 %）
	1. 10%以下	2. 10%～20%	3. 20%超

柱その1



柱その2



壁



RC造

損傷度Ⅳ

柱その1



柱その2



壁



RC造

損傷度Ⅴ

柱その1



柱その2



壁



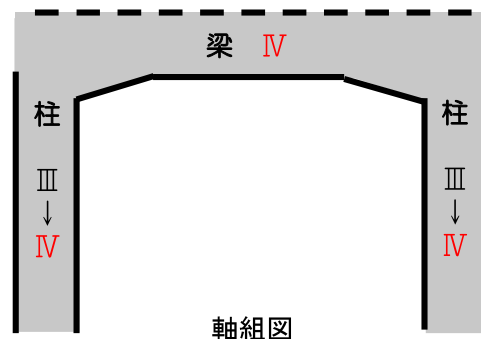
RC造

損傷度による判定

		A ランク	B ランク	C ランク
判定 (1)	①損傷度Ⅲ以上の損傷部材の有無	1.無し	2.あり	

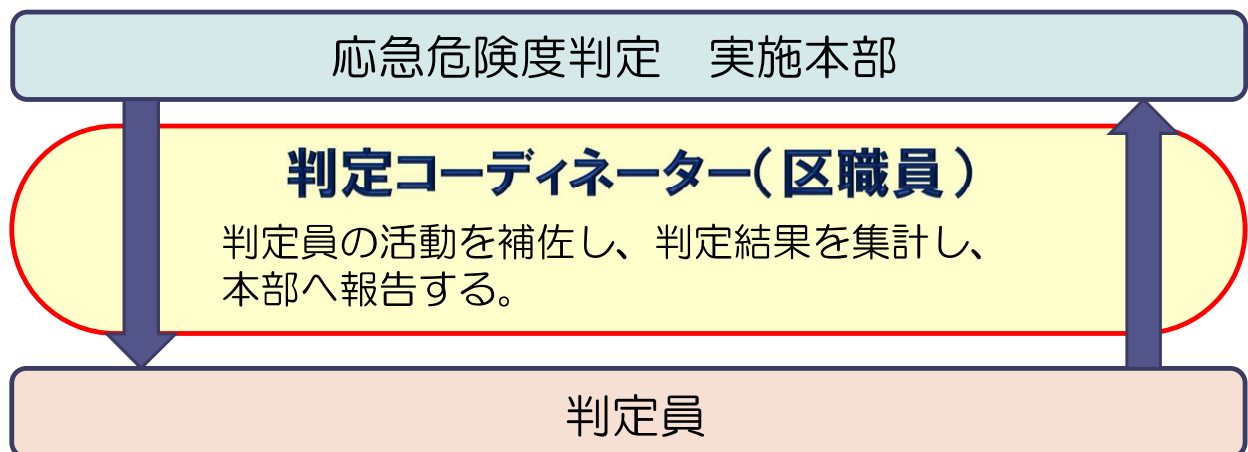
柱の被害〔下記⑤⑥の調査階（被害最大の階） 階〕（壁構造の場合は柱を壁の長さに読みかえる）

⑤損傷度Ⅴの柱本数／調査柱本数	損傷度Ⅴの柱総数 本	調査柱 本	（調査率 %）
	1. 1%以下	2. 1%～10%	3. 10%超
⑥損傷度Ⅳの柱本数／調査柱本数	損傷度Ⅳの柱総数 本	調査柱 本	（調査率 %）
	1. 10%以下	2. 10%～20%	3. 20%超



RC造

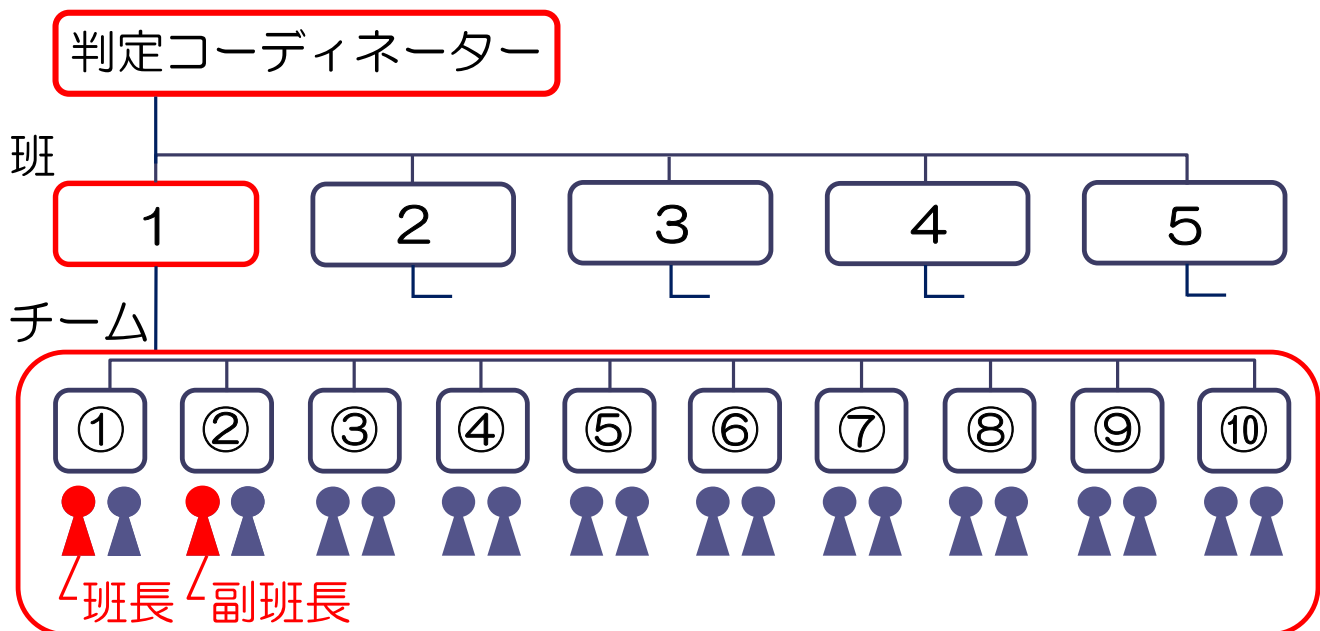
判定コーディネーターとは



判定コーディネーター 主な業務

- ・ 判定員の受け入れ
- ・ 判定実施チームと班の編成
- ・ 資機材の配布
- ・ 判定活動の説明
- ・ 判定員からの情報収集・質問対応
- ・ 資機材の回収・確認
- ・ 判定結果の集計・実施本部への報告

判定コーディネーター・班・チームの編成（マニュアル上）



受持ち判定員：2 × 10(チーム) × 5(班) = 100(名)

班長・副班長：2 × 5(班) = 10(名)

資機材の配布、貸出

資機材を必要数配布、貸出
⇒ 貸出機材は数量を記録

- ・ 判定ステッカー、掲示用テープ
- ・ 判定調査表
- ・ 筆記用具（マジック、蛍光ペン）
- ・ 住宅地図、判定街区図
- ・ 腕章
- ・ 下げ振り
- ・ メジャー
- ・ バインダー

※原則、判定員持参

- ヘルメット
- 筆記用具（判定調査表記入用）
- 判定マニュアル、手帳、登録証

12

自動車

鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造建築物等の応急危険度判定調査表

調査番号 _____ 調査日時 月 日 午前・午後 _____ 調査回数 回目

調査員名氏 (調査員氏名) No. _____

調査員氏名(氏名)

調査員番号

建築物の基本情報

1 建築名称 1.1 建築物番号

2 建築所在地 2.1 所在地

3 建築用途 3.1 用途

4 構造種別 4.1 構造種別

5 建築年月 5.1 建築年月

調査員氏名

調査員番号

調査員氏名

調査員番号

調査員氏名

調査員番号

調査員氏名

調査員番号

調査員氏名

調査員番号

調査方法 (1) 外観調査のみ実施 (2) 内観調査も併せて実施

調査方法

1 一度しと危険と判定される (該当する場合は2も併せて判定し調査を終了し観測記録書へ)

1

2 建築物の全体は1の要しと判定 (該当する場合は2も併せて判定し調査を終了し観測記録書へ)

2

3 建築物の一部は1の要しと判定 (該当する場合は2も併せて判定し調査を終了し観測記録書へ)

3

4 その他 ()

4

5 その他 ()

5

6 その他 ()

6

7 その他 ()

7

8 その他 ()

8

9 その他 ()

9

10 その他 ()

10

11 その他 ()

11

12 その他 ()

12

13 その他 ()

13

14 その他 ()

14

15 その他 ()

15

16 その他 ()

16

17 その他 ()

17

18 その他 ()

18

19 その他 ()

19

20 その他 ()

20

21 その他 ()

21

22 その他 ()

22

23 その他 ()

23

24 その他 ()

24

25 その他 ()

25

26 その他 ()

26

27 その他 ()

27

28 その他 ()

28

29 その他 ()

29

30 その他 ()

30

31 その他 ()

31

32 その他 ()

32

33 その他 ()

33

34 その他 ()

34

35 その他 ()

35

36 その他 ()

36

37 その他 ()

37

38 その他 ()

38

39 その他 ()

39

40 その他 ()

40

41 その他 ()

41

42 その他 ()

42

総合判定 (調査の1で1度と判定される場合は危険、それ以外(調査の2・3の大きい方の危険度で判定する))

1. 調査済 (緑) 2. 調査中 (黄) 3. 危険 (赤)

コメント (観測記録簿の危険が、各丁毎の危険からなる記入する。)

この表は鉄筋コンクリート造建築物の調査用です。

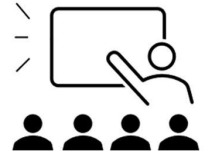
判定員への活動前ミーティング時の説明

被災状況：火災、気象、余震など

活動場所：担当街区、移動方法、集合場所、集合時間

判定方法：外観調査のみ、問い合わせ対応方法、判定上の注意

その他：注意点、緊急連絡先、避難所位置



判定中の対応

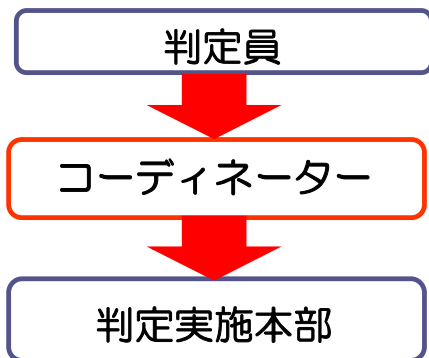
■判定員からの問い合わせ対応

- ・判定方法
- ・住民対応方法
- ・現地状況
- ・その他緊急的な対応

■荒天など危険が生じる恐れがある場合

- ・本部の判断により中止の場合は判定員へ連絡

判定結果の集計、報告



- ◆ 判定結果を着色した地図
 - ◆ 記入した判定表
 - ◆ 特に注意を要する建物と状況
 - ◆ その他活動中に収集した情報
 - ◆ 資機材の回収
-
- +
- ◆ 構造別の調査結果の集計(表)

判定結果を集計、報告（集計表の作成）

提出された判定調査表の結果を結果入力表（Excel）に写す

[illegible]

調査表右欄（各項目判定結果）
をそのまま写す

[illegible]

被災建築物応急危険度判定の模擬訓練（予定）

日時：令和8年11月1日（日）午前

場所：目黒区立第一中学校（目黒区大橋二丁目11番1号）

内容：鉄筋コンクリート造の応急危険度判について

案内：「めぐろ防災フェスタ」にあわせ、訓練を実施。

10月上旬頃にご案内を郵送する予定。

連絡訓練は10月下旬頃に模擬訓練の出欠確認として行う。